

令和6年度夏季ゼミナール成果と課題

【日時】 令和6年8月19日（月） 9：00～12：15（オンラインは8：45～入室可）

【会場】 岐阜地区の方 黒野小学校 体育館
岐阜地区以外の方 Cisco Webex Meeting によるオンラインミーティング

【主催】 岐阜県小中学校教育研究会 小学校理科研究部会

【日程】

受付	開会式	実践発表 6名	ご指導	休憩	全体会	ご講話	閉会式
8:45	9:00	9:15	10:30	10:45	11:05	12:05	

◆開会式（9：00～9：10）

- | | | | |
|---------|-------------|---------|-------|
| 1 開会の言葉 | 岐阜県小学校理科研究会 | 岐阜地区 理事 | 山田 哲也 |
| 2 会長挨拶 | 岐阜県小学校理科研究会 | 会 長 | 浅野 竜也 |

◆実践発表およびご指導（9：15～10：30）

発表者及び発表テーマ ※お一人の発表時間は20分ほど（質疑応答を含む）

助言者：岐阜市教育委員会 鈴木 大介 [A分科会]，岐阜市立三里小学校 教頭 武藤 正典 [B分科会]

分科会	学校名	名 前	テーマ
A	関市立板取小学校	木島 慎介	目を輝かせながら，自然の事象を科学的に探究する児童の育成
	岐阜市立則武小学校	山本 唯	身の回りの事物・事象と関わることを楽しむ 児童の育成と教材の工夫（生物分野）
	瑞穂市立牛牧小学校	恩田 隆輝	強い目的意識をもとに，妥当な考えをつくりだす児童の育成
B	北方町立北学園	宮脇 拓巳	理科の見方・考え方を働かせ， 見通しをもって問題解決ができる児童の育成
	垂井町立府中小学校	三輪 佳佑	問題を科学的に解決する力の育成を目指して ～第5学年「物のとけ方」の実践を通して～
	羽島市立堀津小学校	金澤 信明	I C T活用による理科の資質・能力の育成 ～第6学年「月の形と太陽」の学習を通して～

◆全体会（10：45～11：05）

- | | | | |
|------|--------------|------|-------|
| 1 講義 | 教育研修課 | 課長補佐 | 加古 真紀 |
| 2 講義 | 岐阜聖徳学園大学教育学部 | 教 授 | 川上 紳一 |

◆講演会（11：05～12：05）

- | | | | |
|----------------------------|-------------|----------|--------|
| 1 講師紹介 | 岐阜県小学校理科研究会 | 岐阜地区 理事 | 山田 哲也 |
| 2 講演「理科教員が知っておくべき昆虫のおもしろさ」 | | くわがた村 代表 | 野平 英一郎 |

◆閉会式（12：05～12：15）

- | | | | |
|---------|-------------|-------|-------|
| 1 閉会の言葉 | 岐阜県小学校理科研究会 | 副 会 長 | 堀 部 昇 |
| 2 諸連絡 | 岐阜県小学校理科研究会 | 主 務 者 | 堀 祐太郎 |

<会場での参加者（小理研受付）>

計：100名

実践発表者6名 指導者2名

岐阜地区67名 美濃地区6名 可茂地区5名 西濃地区17名 飛騨地区1名 東濃地区4名

<実践発表について>

- 今、目指している自由進度学習の考え方がよくわかった。
- 繰り返し実験を行うことや、最後の終着点を一人一人に自由に考えさせることなど、自分が行ったこと
ないやり方がたくさんあったので、これから生かしていきたい。
- 理科授業の意識すべき点や導入、実験、見通しなどを持つことの重要性とその方法を知ることができ、
大変ありがたい発表であった。
- 児童に軸足を置いた貴重な実践ばかりであり、今後の授業の参考になった。
- 今年度は特に教材研究が丁寧になされている実践が多くあり、今後の自身の実践につなげやすいものば
かりだった。
- 児童に視点を与えること、児童の学びたいという意欲をかきたてることの大切さと難しさを実感した。
- 授業のスタイルを変えていく必要性を改めて強く感じました。子どもたちへのアプローチ、見方を考え
ていきたいと思う。
- ▲こちらの端末の問題も大きいですが声や映像が聞きにくかった。
- ▲実践人数を減らして、一人当たりの実践について対話などを通して、交流を深められるとより学びが深
まると思った。
- ▲プレゼン資料は画面共有して、発表していただくと見やすいと思う。

<講演会について>

- 信念のある昆虫への探究心に胸を打たれた。
- 昆虫の生態の特徴には、ちゃんとわけがあることを知り、とても興味深かった。
- 好奇心を引き出すこと、好きなことを突き詰めることの素晴らしさを感じた。
- 本物のヘラクレスオオカブトを初めて見て、感動した。やはり物を見せることは大切だと感じた。
- 好きなものがある人、確固たる信念がある人の話は、ここまで惹きつけられるものなんだと感心した。
- 昆虫だけでなく、身近な生き物、性質を自分たちも色々な見方でみることで新たな発見や子どもたちの
興味につながると感じた。
- あれこれ教え過ぎない意識を持ちながら、子供たちと向き合っていきたい。
- 好奇心をもち続け、試行錯誤を繰り返し、失敗や成功経験を元に身に付けられた力は本物であると、野
平さんのお話を伺うたびに学んでいる。
- 子どもが様々な身近の事象に対して、自ら「なぜ？」と考え、突き詰めていけるような環境を整備して
いく必要があると思った。
- ▲参加型に比べて音声だけが頼りなので、聞き取れない部分があり残念だった。

<運営面に関わって>

- 次年度について、「オンラインがよい2%、参集型がよい3%、ハイブリッドがよい95%」という結果に
なり、来年度以降もハイブリッドにしたいという希望が多かった。
- 閉会後も県小理の方に、お疲れのところ研究報告書について、親身にアドバイスをしてくださり、本当
にありがたかった。
- 教育現場ではない方の講演が面白かったので、来年度以降も候補に入れていくのが良いかなと思った。
- ▲音声途切れ途切れになることがあり、聞き取りにくいのが残念でした。
- ▲ハイブリッドは音、画像について難しさを感じました。
- ▲できれば12時までには終われるとよい。